

優秀賞



なびく黒

～重なる色彩～

馬場 日向子さん（日本文理大学）

人にとり巻く偏見のフィルターがはがれることで、人々は自分の色を出し、その色がなびくように集まり、重なり、黒になる。私は今回、この建物を訪れた人に「多様性」という名の色をもってもらうために、映画「リリーのすべて」を題材とし、登場人物の心情を建築で表現し、それを体験できる美術館を設計した。近年LGBT問題を耳にする機会が増えており、中でも同性婚問題の対策として「パートナーシップ制度」が日本の各自治体に導入されている。しかし、大分県では臼杵市だけであり、大分県をもっと「多様性」の色で染めていきたいと思った。

そのため、敷地は大分県別府市餅ヶ浜海岸とその隣接する公園とした。昔、ここにオリアナ号という船が繫留して、出会いのイベントが行われ、多くの愛が生まれた。そこで今回は「多様性」の愛を受け入れる拠点とした。この美術館では様々な空間を通ったあと、LGBTに関して手紙を書き、それを紙飛行機にし、栈橋で飛ばす。これは世界に繋がる海に向かって多様性のある未来が広がるという願いをこめたものである。

このように様々な空間を巡っていき、自分が持っている偏見のフィルターを徐々にはがしていき、「多様性」の色を染めるきっかけとする。多様性の色を持つ人が増えていくことで、当事者も生きやすい世界になる。

